



イルカ通信

隔月 1 回発行
バックナンバーは無料でダウンロードできます
(下記参照)

2007年8月1日 No. 019

小笠原ホエールウォッチング協会 (OWA)



小笠原で暮らすイルカたち



「#19に兄弟誕生」

ミナミハンドウイルカの兄弟は仲良く泳いだり、はたまた兄弟げんかのようなことをするのでしょうか。個体識別番号#20は昨年5月まで#19という推定年齢4歳のメスの子イルカを連れていました。そして、この#20は今年のゴールデンウィーク前には#19とは異なる子供のイルカを連れていたところが目撃され、6月には写真でもその様子が記録されました。そう、#19に兄弟ができたのです(まだ性別は不明)。しかし、#19の姿がそばに見あたりません。実は#19は昨年6月以降、親と離れて行動するようになったのが確認されています。ミナミハンドウイルカの子イルカが母親イルカから離れる時期は、多くの哺乳類がそうであるように、弟や妹の誕生がひとつのきっかけになるといわれており、兄弟が揃ってずっと一緒にいることはないようなのです。



#20(左)とその子供(#19の兄弟)



「コブが特徴のイルカ」

私たちの調査では、ミナミハンドウイルカの体表にある模様や傷跡、特徴をもとに、一頭一頭のイルカを個体識別してその観察歴から移動や個体間の関係などの生態を探っています。今回はちょっと変わった個体を見分ける特徴をご紹介します。



写真のイルカには、体の右側面にこぶ状の膨らみがあるのがわかりますか。このイルカ(個体識別番号#5)には少なくとも2005年6月からこのようなコブがあることがわかっており、個体の特徴を示すよい目印となっています。しかし、最近このコブが少し大きくなったように感じます。ゴンドウクジラの仲間にもこのようなコブが時折見られますが、なぜこのようなコブができるのかの原因はわかっていません。気になるので、今後も経過を観察しながら見守っていきたいと思います。

OWAのナイトレクチャー ★「クジラやイルカの間から見た小笠原」

小笠原のクジラやイルカたちが、どのような暮らしをしているのかを紹介します。

【日時】7月27日、8月2、5、8、14、17、20、23、29日
午後7時30分～8時30分

【場所】小笠原ビジターセンター 多目的ホール

【費用】資料代として500円(小中学生250円、村民・OWA会員無料)



問い合わせ先・小笠原ホエールウォッチング協会 2-3215



小笠原ホエールウォッチング協会
〒100-2101 東京都小笠原村父島字東町

URL <http://www.ogasawara.or.jp/owa>
Tel 04998-2-3215 e-mail owa@h6.dion.ne.jp

